

知事記者会見の概要

日 時：令和7年10月30日（木） 10:02～10:50

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から3件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和7年度「高齢者の交通事故防止推進強化旬間」について
- (2) オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン及びパープルリボン・女性に対する暴力をなくす運動について
- (3) 「ラーメン県そば王国」フェスタ in やまがたの開催について

代表質問

- (1) 政府のコメ政策について

フリー質問

- (1) 当県のクマ対策の状況について
- (2) 宮城県知事選挙の結果について
- (3) 第1回山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議について
- (4) 宿泊税について
- (5) 米有力旅行メディアにおける「2026年に行くべき世界の旅行先25選」への選出について
- (6) モンテディオ山形新スタジアム建設について
- (7) 代表質問に関連して

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

めっきり寒くなってまいりました。県民の皆さまには、くれぐれも体調管理をよろしくお願いいたします。

さて、県内のクマの目撃件数ですが、1900 件を超えました。過去に例を見ないペースで続いているところです。

また、人身被害は、10 月に入って、農作業やキノコ採り中に 3 件発生し、今年 9 件となりました。被害に遭われた方には、心からお見舞いを申し上げます。

隣県では、非常に痛ましい死亡事故も発生しております。本県では、引き続き「クマ出没警報」を発令中ですが、県民の皆さまには、改めて、「クマの活動が活発になる早朝や夜間は特に注意をすること」、「キノコ採りなどで山に入る際や農作業の際、また、クマの目撃情報があったところでは、音が出るものを携行すること」、「登下校や散歩などは、できるだけ複数で行うこと」など、お一人おひとりが、より一層、警戒を強め、身を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

なお、クマの出没状況や対策などの最新の情報を共有し、今後の対応に万全を期すことなどを目的に、明日、私をトップとした「クマ緊急対策会議」を開催することといたしました。報道機関の皆様方には、ぜひ取材をしていただき、県民の皆さまへの周知にご協力くださいますようお願いいたします。

それから、秋といえば「スポーツの秋」です。

「第 24 回全国障害者スポーツ大会」が、今月 25 日から 27 日まで滋賀県を会場に開催されました。本県の出場選手団の活躍について申し上げます。

陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスクの五つの競技に出場し、金メダル 11 個、銀メダル 12 個、銅メダル 2 個と合計 25 個のメダルを獲得しました。金メダルの獲得数は、東北では 2 番目でありまして、素晴らしい成績でありました。

本県選手団の活躍は、県民に元気と活力を与えてくれました。今後も、選手団の皆さんが、それぞれの競技で、より一層ご活躍いただくことを心から期待しております。

☆発表事項

知事

ここで私から発表が三点ございます。

一点目は、「高齢者の交通事故防止推進強化旬間」についてであります。

11 月 1 日～10 日までの 10 日間、「高齢者の交通事故防止推進強化旬間」として、高齢者が関わる交通事故の防止に向けた各種運動を展開してまいります。

県内の今年の交通事故犠牲者数の状況ですが、対前年同期比で 7 人減の 16 人となっております。

ます。このうち、年齢別では 65 歳以上の高齢者が 12 人と約 7 割を占めております。

日没がさらに早まるこれからの時期は、夕暮れ時から夜間にかけて、特に高齢者が関係する交通事故の増加が懸念されます。

このような状況を踏まえ、このたびの運動では「夕暮れ時以降の交通事故防止」を重点に掲げております。

期間中、県では、各市町村や関係機関・団体等と連携しながら、交通安全教室の開催や街頭での夜光反射材の配布など啓発活動に取り組んでまいりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

二点目は、オレンジリボン、パープルリボンでございます。

11 月は、こども家庭庁が定めた「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」期間であります。本県でも、社会全体で児童虐待防止の気運を高めるため、「山形県オレンジリボンキャンペーン」として、期間中、オリジナル CM のテレビ放映や WEB 配信を行います。そのほか、モンテディオ山形と連携して、11 月 9 日日曜日開催のホームゲームで PR するなど、啓発活動を実施いたします。

県民の皆さまには、子どもと子育て家庭を見守っていただくとともに、虐待かもしれないと思ったら、ためらわずに児童相談所虐待対応ダイヤル「189」（いちはやく）に電話していただきますようお願いいたします。

また、11 月 12 日～25 日までの 2 週間は、内閣府が定めた「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。本県でも、女性に対する暴力のない社会の実現をめざし、暴力を許さないという意識を社会全体で醸成するため、「パープルリボンキャンペーン」として、文翔館や上山城などでのパープルライトアップや男女共同参画センター「チェリア」での DV 防止講座などを行います。

県民の皆さまには、身近に暴力に悩む女性がおられましたら、声をかけていただき、DV の相談は「#8008（はれれば）」、性暴力の相談は「#8891（はやくワンストップ）」への電話を促すなどしていただきますようお願いいたします。

記者クラブの皆様にも、これらのキャンペーンの啓発にご協力くださいますようお願いいたします。

児童相談所虐待対応ダイヤルは「いちはやく（189）」、DV 相談は「#はれれば（8008）」、そして、性暴力相談は「#はやくワンストップ（8891）」でありますので、よろしくお願いいたします。

三点目、秋は「食欲の秋」でもあります。『ラーメン県そば王国』フェスタ in やまがたの開催について申し上げます。

お手元に資料を配付しておりますけれど、県では本県が誇る多様なラーメンとそばの魅力を県内外に発信し、多くの方々においしい山形のラーメンやそばを味わっていただくため、

11月1日土曜日、やまぎん県民ホール イベント広場におきまして、3回目となる『『ラーメン県そば王国』フェスタ in やまがた』を開催いたします。

今回は、初出店の2店舗を含む、ラーメン店6店舗、そば店2店舗の特色あるラーメンとそばを味わうことができるほか、新たにそば打ち体験や県産日本酒、ホットワイン、県産フルーツを使ったハイボールなどの提供、さらには県産キノコ、乾麺の販売なども行います。

また、同日、隣接するやまぎん県民ホール大ホールでは、13時30分から「こども郷土芸能・芸術まつり」が開催されます。お配りしているチラシに記載の子どもたちによるバレエや郷土芸能などが披露されますので、この機会にぜひご鑑賞いただきたいと思います。

県内各地で食や文化に触れる秋のイベントが開催されております。県内外から多くの方々には山形県を訪れていただき、山形のおいしい、そして楽しい秋を満喫していただきたいと思いますというふうに思っております。

私からは以上です。

☆記者クラブ代表質問

記者

おはようございます。

山形放送の中川です。よろしくお願いします。

政府のコメ政策について伺います。高市内閣で新たに就任されました鈴木憲和農林水産大臣ですが、今後の米の生産に向けた考え方や、政府備蓄米の取り扱い、そして、米の価格高騰対策といった、コメ政策を巡る大臣自身の見解を示されました。こうした鈴木大臣の見解について、知事の所感をお聞かせください。お願いします。

知事

はい。では、お答えいたします。

このたび、鈴木憲和衆議院議員が農林水産大臣に就任されたことに対し、私も先週上京した際にお会いをしまして、直接お祝いを申し上げました。

鈴木大臣は、生産現場をよくご存じの方でありまして、農業者の実情に即した政策運営に期待を寄せているところであります。

今後の米の生産に向けましては、鈴木大臣は「需要に応じた生産が原則である。海外も含めてマーケットを拡大し増産していく」とおっしゃっております。需要に見合う適正な生産を行うことは、価格下落を防ぎ、安定的な農業経営を支える上で極めて重要な考え方だと捉えております。これは、本県における米の生産に対する考えと一致するものであります。

また、政府備蓄米につきましては、食料安全保障の観点から重要な制度であると考えております。鈴木大臣は「市場に米が不足したときは備蓄米でしっかり対応することが基本であり、価格高騰を理由とした放出は考えていない」とおっしゃっております。備蓄米の本来の目的を踏まえた発言と受け止めております。

さらに、米の価格高騰対策につきましては、政府の重点支援地方交付金により、すでに行われている「おこめ券」など地域のニーズに沿った消費者支援策に言及しておられます。現在、重点支援地方交付金の拡充について、支援メニュー等を検討されていると聞いておりますので、実効性ある対策が打ち出されることを期待しております。

現行の水田政策が見直される令和9年度に向けましては、「先の見通せる農政」の実現を目指すとの考えを示していらっしゃいますので、本県としても、政府と連携しながら、地域の実情を踏まえ、生産者の皆さまが安心して米づくりが続けられるよう、施策を展開してまいりたいと考えているところであります。

☆フリー質問

記者

読売新聞の中戸と申します。

クマ対策について、二点伺います。一点目はですね、現状の山形県内のクマの対処体制がですね、十分かどうか、どう判断されているかについて。猟師さん、猟友会の数は足りているのかであったりだとか、出動する警察官や市町村の人員体制は足りているのかはどうお考えなのか、というところが一点目。

もう二点目は、仮にそれが不十分であった場合、あるいは今後のクマの増加に耐えられなくなる、というふうに予想される場合ですね、国に何らかの支援を要望するのかどうか。

隣県、秋田県では自衛隊をちょっと出してくれ、というふうに知事が東京の方に行かれたりしましたけれども、山形県内でも、例えば自衛隊への要請等は検討しているのか、あるいはそれも可能性の一つなのか、というところ。

この二点を伺わせてください。

知事

はい。本当に今年はですね、ものすごいペースでクマの目撃情報でありましたり、被害件数というものが推移しているところであります。

「緊急銃猟」といったことも制度施行となりましたので。ただ、市町村のところですね、様々な疑問もお持ちだというようなこともあり、県庁と、知事部局と県警とですね、「タスクフォース」というものを組んで、市町村を訪問して、いろんな疑問や悩みにお答えをしているというような状況であります。

さらにですね、明日、クマ緊急対策会議を行うというふうに先ほど申し上げましたけれども、本当に類を見ないペースで出没情報があつて、やはり県民も不安に思っておられるというようなことで、県民の皆さんの安全・安心のために、どういったことをこれから進めていくべきか。目の前のこと、また、中長期的なこともあるかと思っておりますけれども、そういったことについて、明日情報共有する、今後の対策も考える、というようにしております。

今、様々な体制、人員が足りているかというのが第一点目でありましたけれども、そのこと

につきましては、担当部の方で今、市町村とか、猟友会、そういったところに聞き取りをしているところです。やはり現場で、どのくらい不足感があるのか、とかですね、課題、どういったことがあるのかということ、しっかりと把握しながら、市町村や猟友会ともやり取りをしながら県としてしっかり対策をしていく、といふうにしております。

ということで、現時点で足りているのか、足りていないのか、ということについては確認した上でお答えをするしかない、というふうに思っております。

もう一点目は、防衛省の方に派遣要請をするのか。自衛隊の派遣要請というようなことについても、今、ご質問ありましたけども、明日の対策会議以降ですね、やはり本県の実情というものを踏まえて、しっかり考えていきたいと思っています。要請をするのか、しないのかということも含めて考えていきたいと思っています。

また、近々東北・北海道の知事会議もございます。そういったところでもね、やはり話題にしていきたいというふうにも思っています。

全国的な、今、クマ問題ということになっておりますので、やはり目の前のことにしっかりと実情を踏まえながら対応していきたいというふうに考えているところです。

記者

TUYの大内です。よろしくお願いいたします。少し重なる部分もあるかと思いますが、クマについて幾つか伺います。

まず1点目。昨日は山形市内、そして南陽市の学校でクマが出ました。そして今日も鶴岡市や山形市で目撃が相次いでいます。今、知事は、この緊迫した状況をどう捉えていますか。

知事

はい。最初に申し上げましたけれども、本当に過去に例を見ない、ものすごい急速なペースでそういうクマの情報が寄せられているということでもありますので、県民の皆さんがですね、今までは山に入る時に気をつけてくださいというようなことがメインだったと思いますが、今はもう町にいても、クマのほうがり市街地に現れるという状況になってきておりますので、やはり本当に大変な事態だなというふうに考えております。県民の皆さんが近場の河原とか公園を散歩するにしてもですね、遊ぶにしても、子どもさんもまた大人もですね、ちょっと不安を持っている状況かなというふうに捉えております。

記者

ありがとうございます。そして自衛隊の派遣について、明日以降の会議で要請すべきかどうか話し合っていくと、先ほどありましたが、知事ご自身は要請すべきかそうではないか、そちらどうお考えでしょうか。

知事

そうですね。やはり市町村とかですね、猟友会、そういったことの実情把握、そして現場に最も近い市町村の御意見を伺ってそれを踏まえて判断するというのが最も正しいというふうに思っております。やはり、派遣要請も一つ考えられますし、もう一つは、箱わなというようなところまでいっていないというような自治体もたくさんあるそうでありまして、それ以外にやはり様々な人員体制もそうですが、予算的なものとかですね、猟友会また射撃場とか、様々なところにいろいろな課題があるのかもしれないので、そこをしっかりと把握して要請をするのかしないのかということを考えていきたいと思っています。

ただ、県単独でしないにしても、広域連携して要請していくということは、私は視野に入れています。

記者

ありがとうございます。東北各地で人がクマに襲われ亡くなるというケースが相次いでいます。ただ、山形県は幸いまだ、クマに襲われて人が亡くなったというケースは出ていません。だからこそ県民の命を守るために早期に対応することが必要かなと思うのですが、知事はそれについてはどうお考えでしょうか。

知事

記者さんのおっしゃる通りだと思っています。やはり犠牲者が出てからでは遅いというようなことで、緊急に対策会議を開いて、そしてできる限りのことを市町村や猟友会の皆さんと一緒にやって行動をしていきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。先日の宮城県知事選挙の件についてお伺いしたいのですけれども、先日の宮城県知事選挙でですね、現職の村井さんがまた6選を果たされたということで、吉村知事もですね、宮城と山形で隣の県同士ということで、知事同士のつながり、知事会ですとかそういったところで会うこと、それ以外でも会うこととかというのは結構多いかと思うのですけれども、そういう中でつながりが非常に村井さんと吉村知事、深いのかななどというふうに思っていたところですが、6選果たされたというところに関して、率直に考えるところというのは、どういった部分ございますか。

知事

そうですね、接戦に近かったということには驚きましたけれども、まずもって宮城県民の皆さまの判断が村井知事ということになったと、支持されたということだと思っていますので、当選された宮城県村井知事に心からおめでとうを申し上げたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。次の質問なのですが、先ほども申し上げたのですが、このたび6期目に村井知事が突入するということで、吉村知事よりも期が多いという形にはなっていると思うのですが、その中でですね、6期目なかなか長い任期になってきたのかなというところで、良い面と悪い面というのがあると思うのですが、知事の考える長期の任期の良い面とそうでない面というのはどういったところにあると考えていらっしゃいますか。

知事

いや、本当にその時々のことだと思っていますので、栃木県知事も今6期目ということでありまして、6期目の良し悪しについて、私からちょっと申し上げるということは控えさせていただきます。

記者

ありがとうございます。3つ目なのですが、先ほど知事もおっしゃっていたと思うのですが、今回の宮城県知事選挙、接戦だったということで、元自民党の参議院議員の方が、参政党が支援された方がですね、山形市の隣の仙台市では、非常に得票数が逆に村井さんを上回るなんていう、非常に票が割れた選挙だったと思うのですが、その背景にはやはりSNSですとか、そういったところでの、なかなか真偽不明な情報がいろいろ出てきたというところがあるんじゃないかという、そういう分析なんかもなされていると思うのですが、昨年の兵庫県知事選挙もそうなのですが、SNSでいろんなよく分からない情報が増えていると、それが選挙結果に影響し始めたという、そういう現状というものに対してはどうお考えですか。

知事

そうですね、今後のね、選挙でそういったことがね、たびたび起こるようなことであれば、まさに憂慮すべきことかなというふうに私は思っております。本当にニセ情報などということとはあってはならないし、それに振り回されて投票行動に赴いてしまうというようなことも、やはり大変なことだなというふうに思っています。

候補者に対する虚偽の事項を公開する行為というのは、処罰の対象になるのですが、ただ、選挙中というのは本当に短い時間と言いますかね、そういう時間にバーっと広がって、それを途中で阻止するとかいうようなことはなかなか困難であります。やはり、良識ある投票行動をとれるように、どういうふうにしていったらいいのかということは、これからSNSなども非常に活発になる中で、一つの大きな全国的な課題であるというふうに捉えています。

そうですね、今言えるのは、SNSなどに左右されないで、それぞれの候補者のホームページなどを見てですね、正確な政策や公約、そういったことを確認した上で判断していただき

たいということは、現時点で申し上げられることだというふうに思っています。

記者

すいません、山形新聞稲村です。またちょっとクマ対策、先ほどの知事のお答えの中で、自衛隊の要請で、広域連携で要請するのが一つだ、みたいなことをおっしゃっていましたが、これはどういうイメージでおっしゃったのですか。

知事

ごめんなさい、自衛隊の派遣というふうに固定するのではなくて、防衛省に対してどういったクマ対策を要請していくかという、幅広の観点で考えていきたいと思っています。派遣というとな、報道等で存じ上げておりますけれども、箱わなの時のお手伝いであったり見回りであったりということでもあります。秋田県は本当に複数の犠牲者が出ているし、市町村の体制がもう本当に追いつかないというようなことだというふうに、報道等で見聞きしているわけなのでありますけれども、各県がですね、どの程度なのかまではやはり分かりません。ですが、クマが出没している、それぞれの市民・県民が非常に不安な状況にあるということは間違いないと思いますので、どういったことを連携して要請していくのかということが大事だというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。あとはすいません、話変わってですね、昨日東京のほうで米沢トンネルの整備スキーム検討会議の初会合、これが開かれました。大きな1歩を踏み出したということだと思いますが、これに対する知事の今の受け止めをお聞きできればと思います。

知事

はい。そうですね、昨日、折原副知事に行ってもらったわけなのでありますけれども、米沢トンネルの早期事業化の実現に向けて、整備主体、費用負担、必要な予算・税制・制度等の整備スキームについて、どのような方法が考えられるのか検討を行うために、「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」を先月設置をいたしまして、昨日、第1回となる会議が開催されました。

森地^{もりち}東京大学・政策研究大学院大学名誉教授を座長として、国土交通省からは小林鉄道局次長、JR東日本からは伊藤副社長などにご参加をいただき、本県からは折原副知事が出席して、活発な議論が行われたと聞いております。

今回の会議では、米沢トンネル（仮称）整備計画の概要、整備に関するスケジュールや費用負担想定等について、県やJR東日本から説明を行った上で、会議の検討事項として、一つには事業費やスケジュール等の整備計画と、二つ目、整備主体、費用負担、必要な予算・

税制・制度等の整備スキーム、この2点について検討を行っていくことが確認されました。

その上で、1点目の整備計画につきましては、委員から、約2,300億円という事業費や、着工から約19年という工期について、工法等の精査により圧縮できないか、そしてまた、着工までのプロセスである設計や環境アセスメントに必要な約6年という期間について短縮を検討できないか、といった意見がありました。

また、2点目の整備スキームにつきましては、地方財政措置も含めて、地方負担を軽減する措置を検討すべきである、また予算だけでなく、財政投融资、税制、運賃・料金制度等も含め幹線鉄道の機能強化を進めるための制度を考える必要がある、そしてまた、JRが費用負担額として想定する受益の範囲についても精査を行うべき等の意見がありました。

今後は、今回いただいたご意見を踏まえ、整備計画や整備スキームについて事務的に整理を行った上で、第2回会議におきまして議論を行い、今年度内の開催を想定している第3回会議において、整備計画や整備スキームの案について一定の取りまとめを行いたいと考えております。

私はかねてよりこの米沢トンネルが、山形県の発展につながる、まさに「山形県の未来を拓く希望のトンネル」だというふうに申し上げてまいりました。今回の会議において、トンネル整備の実現に向けて具体的な議論が始まったことは大きな一歩であると考えております。早期事業化の実現に向けて、引き続き検討を深めてまいりたいというふうに考えております。

記者

それで、最後にもう1点なんですけれども、米沢トンネルという性質上考えるとですね、お隣の福島県では、このフル規格化に向けた議論が始まったところだと思います。福島県との連携もこのトンネル整備には今後必要ではないかというふうに考えることができると思いますが、そのあたり知事のお考えはどうでしょうか。

知事

そうですね、やはり米沢－福島間のトンネルということでもあります。知事同士集まった時はですね、例えば青森行きの新幹線については、「うちのところは通過するだけだからな」などと福島県知事が言って、立ち話ですけど言っておられますし、うちの県についてもどうなのかと、うちの県の新幹線ですね、フル規格かどうか分かりませんが、スマート新幹線というような名前も使っているようですけど、いずれにしても名称だけでない新幹線、200km以上というようなスピードが出るというそういう新幹線でありますけれども、それにつきましてはやはり福島県との連携もしっかりやっていくべきだろうと思っています。県議会議員の皆さんがですね、福島市の青年会議所でしたか、福島市の若い方々と連携を始めてくださっていますので、大変ありがたいと思っておりますし、今後、やはり福島県との連携ということも考えていければというふうに思っております。

記者

NHKの内藤と申します。よろしくお願いします。

宿泊税についてお尋ねできればと思います。山形市が観光地としての魅力を高めるための新たな財源として宿泊税の導入を検討していきまして、先週検討会議の初会合が開かれました。

宿泊税について、全国を見渡してみますと、例えば東京とか大阪、福岡なんかでは県レベルで導入していきまして、その他の県でもですね、導入に向けた動きなんかが出ているところですよ。山形県としてはこの宿泊税の導入についてどういうふうにお考えになられますでしょうか。

知事

はい。そうですね、宿泊税の導入というのは、今年の10月29日時点で都道府県6団体ということでありますけれども、東京、大阪、福岡、宮城、広島、北海道というところであります。

宿泊税というのは、各自治体が条例により設定することができる法定外目的税であります。自治体が裁量によって関係者の意見をお聞きしながら、政策判断として導入していくものと承知をしております。

山形市におきましても、急激なインバウンドの拡大に伴う局地的なオーバーツーリズムへの対応や、蔵王がありますのでね、山形市は、山形駅前の観光案内所の整備などの市独自の課題解決のための財源として宿泊税の検討を行っているものと認識をしております。

現在、山形市では観光財源検討委員会において検討を進めている段階であり、県として現時点でコメントする立場にはないというふうに思っておりますが、県としてどういう考えかということなんですよね。

宿泊税を導入した自治体では、中小宿泊施設の事務負担感の増といったことや、宿泊税を導入していない隣接県との競争力低下を懸念する声があります。また、税収の使い道をどうするかといった様々な観点から意見が寄せられ、関係者の理解と共感を得ることが最重要視されております。

また、県が宿泊税を検討する際には、今般、導入の方向性を示した山形市を含め、県内市町村との十分な調整も必要であると考えられます。35市町村ございますので。

県としましては、現在、県内の温泉組合や観光協会などに今後の観光施策の方向性を踏まえて宿泊税を含めた必要な財源のあり方について考えをお聞きしているところであります。また、11月下旬の県観光審議会場で各方面の専門家の御意見を伺う予定でございます。

様々な観点からの御意見を踏まえ、関係者の声を丁寧にお聞きしながら、観光振興施策に必要な財源確保策についてしっかりと議論してまいりたいというふうに考えているところであります。観光には力を入れていきたいので、しっかり考えていきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

旅行のところで、例の旅行誌の『ナショナルジオグラフィック』のほうで、**2026年**に行くべきところとして山形県が選出されたという形がありましたけれども、これによって旅行者の方がいらっしゃるところもありつつ、まずその所感と、あとインバウンドの増加だったり、オーバーツーリズムというところの対策というところを、ちょっと重なるかもしれませんが、もう一度お聞きできればと思います。

知事

この度、米国の有力旅行メディアであります『ナショナルジオグラフィック』の「**2026年**に行くべき世界の旅行先**25選**」に、国内で唯一山形県が選出されました。このことについては大変喜ばしく思っているところです。

本県が選出されたのは、東京から**300km**ほどの距離にもかかわらず別世界のような静かさを保つ場所であり、聖なる山々、静寂に包まれる寺社、フォトジェニックな温泉、四季を通じて各地で開催される伝統的な祭りなど、古くからの伝統と神秘的なアウトドア体験ができる点を評価いただいたと伺っております。

本県の魅力が国際的に認められたものであり、県民の皆様が先人から受け継いできた雄大な自然や伝統文化の継承に日々御尽力をされてきたその賜物であるというふうに考えております。

県としましては、この度の選出を大きなチャンスと捉え、本県の魅力を、米国市場をはじめ世界に向けて積極的に**PR**するとともに、訪れたインバウンドのお客様の方々にご満足していただけるよう、県内観光地の受入態勢の整備を進めていきたいというふうに思っているところです。本当にすごいことだなというふうに思っております。

記者

共同通信の中村です。

すみません、クマに話が戻るんですけども、広域連携は視野に入れているということでしたけども、これは具体的には先ほどおっしゃっていた北海道とか東北の知事会議で話題にしたいということなんでしょうか。

知事

そうですね。11月上旬にあったかと思いますので、やはり今年度の目の前の対策ももちろん大事ですけども、来年度も再来年度もというふうが続くかもしれないので、やはりしっかりとした体制をですね、整えていく必要があるなというふうに思っているところであります。

記者

広域連携というと、他県と連携して現場の支援をするということ、具体的にどういうことなのかと。

知事

要請行動ということでありましたので、先ほどの質問が。

記者

わかりました。明日その緊急対策会議があると思うんですけども、これまでもこういう会議はありましたけども、実際に知事とか部長とかが出席するというのは、多分また別のフェーズに入ったかなと思うんですけども、この緊急対策会議を開催するというのは、その背景として、例えばリーダーシップを発揮するべきだと思ったとか、現場の実情を知事が実際に情報を共有するべきだと思ったとか、例えばどういった理由で今回この緊急対策会議を開くことにしたか教えてください。

知事

そうですね、まだ山形県内はですね、クマの出没、目撃情報、そして数名の方々が、まだ2桁には至っていませんけれども、ちょっとした傷害、被害に遭ったというようなところでありますけれども、これからまたどういうふうになっていくか、私はやっぱり県民の皆さんの生命、命にまで危険が及ぶのではないかという心配をしております。

これだけやはり毎日のようにですね、目撃情報、出没情報というのがありますと、もう災害に近いのではないかというふうに思っておりますので、やはり各部担当、教育界も、学校もありますからね、あと福祉施設もごぞいますし、本当に各部と情報を共有して、どういう対策を立てていくかということは、全庁的にやはりしっかりやっていったほうがいいなという私の判断です。

記者

よろしくお願いします。

モンテディオ山形がオフィシャルパートナーであるSCOグループの玉井社外取締役と関係を解消するということが昨夜発表されました。SCOグループは新スタジアムの構想にも尽力されていたということですが、このスタジアムの建設に関わっている県としての受止めをお聞かせください。

知事

はい。今、SCOグループがですね、支援解消ということで発表があったということですが、この件について、県としましては10月28日に開催されたモンテディオ山形の実業団

会、そこには県庁からも取締役として部長が出席しておりますので、そこで報告を受けて状況を把握したところであります。

そういったことでありまして、取締役会で報告は受けたんですけれども、その中で議論された件とかそのいろいろな経緯ということについては把握しておりませんので、お答えというのはなかなかできないなというふうに思っております。

このSCOグループの新スタジアム建設事業の支援解消によって、新スタジアム建設工事に影響が出る可能性もあるとの説明を受けたということでもありますので、引き続き計画変更の有無や今後の対応について、モンテディオフットボールパークに確認をしまいたいというふうに考えています。

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願いします。

先日鈴木大臣にお会いしたということでしたけれども、その際、県内の農政に関するお話などはありましたでしょうか。

知事

そうですね、まずはお祝いを申し上げたということでもありますけれども、私からですね、今本当に、昨年来様々なコメ相場が混乱をしているというようなことについて、そこを交通整理をしてこれから道筋をつけていくという大事なお役目ですねというようなことで、大変荷の重い仕事だと思いますけれども、現場もご存じだし、しっかりとこれまでの様々な知見をですね、存分に発揮していただきたいというようなことを申し上げてきました。

生産者のことも申し上げてきました。やっぱりコメの価格と適正価格ということが重要でありますので、そういった方向に向けて尽力をしていただき、安心して生産者が生産できるような方向でお願いしますというようなことは申し上げてきました。

あと、私からひとつ申し上げたのは、東北農林専門職大学がございますので、ぜひ、もう少し落ち着いてからでいいので、専門職大学で学生たちと意見交換の場も持っていただきたいということを申し上げて、それは快諾でした。

記者

コメのお話をした際には、鈴木大臣からどういうふうに返答があったのでしょうか。

知事

そうですね、需給バランスということや、やはり大変重要だと考えているというような話でありました。しっかり対応していくということでありましたのでね、短時間でありましたし、あまりいろいろな項目についてお話をしたわけではありません。今になってもっといろんなお願いをしてくればよかったなというふうにも思っています。